

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900074		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホームにこにこひがしやま(なののはな)		
所在地	岩手県一関市東山町長坂字北磐井里187番地3		
自己評価作成日	平成24年5月24日	評価結果市町村受理日	平成24年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0390900074-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団 ※公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>なじみの暮らしの継続 昔はあたり前に行われていた、味噌、梅干し、凍み餅作り、畑作りを通じ、なじみの暮らしが継続出来るよう 力が発揮出来るよう支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームにこにこひがしやまの特色は、3つに分けられる。 ●管理者・スタッフ一丸となつての「自己評価への取り組み」。個々に振り返りや確認作業を行い、それを皆で話し合い事業所評価を行うことで、「サービスの質」の向上へ向き合っている姿が見られる。また個々の職員も資格取得等の目標を持って、自己の資質の向上をめざしている。 ●地域との交流、相互協力的な関係性の構築がなされている。地域の防災協力隊の結成や、日ごろからの事業所への理解の様子が見受けられる。 ●運営推進会議の充実と、家族との絆。地域の代表や利用者家族も委員となって開催されている会議での積極的な意見交換の様子がうかがいしれる。かつて、利用者家族であった方が(その利用者が他界されたのちも)地域の一人として当該会議にも参加している。手作り味噌の手ほどき等を受けている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、スタッフルームに理念を掲示し、毎日申送りの際唱和している。職員は理念の意義を理解し実践につなげている。	理念には「地域」が謳われており、グループホームも一般の家庭と同じように地域からも見て頂けることを取り組みの原点としている。地域との関わりが強くなってきていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地域の小学生の下校の見守り隊に参加したり、地域の老人クラブの方達と一緒に清掃活動に参加している。小学校や地域行事にも参加している。	グループホームの畑の草取りのお手伝いや、お祭りの時のボランティアなどをして頂くことのほか、小学生の(下校時)見守りなど、「こちら」からも積極的に関わり合っている。また、運営推進会議の委員の老人クラブの会長から勧められ、老人クラブに加入している。定例会には職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人クラブの定例会に参加し、認知症の理解、地域で支える関係の理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で開催し、市職員、区長、ボランティア協会会長、近隣住民、利用者、家族の参加を頂き活発に意見が出されている。意見はミーティング等で職員に展開され支援に活かされている。	運営推進会議では老人クラブの会長さんをはじめ、参加委員の積極的な意見交換が行われている。また、利用者家族からは「家族主体の活動をしてみたい」という意見も出ており、会議を契機とした新たな取り組み(花見の弁当を作る等、準備から関わりたい等との意見)が始まろうとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に出席して頂き実情を理解して頂いている。日頃から連絡をとり、実情やケアサービスの相談をしている。	運営推進会議でもざっくばらんに話して頂けるような関係となっている他、日頃から事業所のケアサービスに関わる相談も行っており、協力関係が継続していけるように(事業所としても)取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年内部研修を行い理解を深めている。職員間でもお互いに注意し合いながらケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進員研修も受講するなど、外部の研修参加もしている。不適切な声掛けを明記したマニュアルの活用やスタッフの話し合い等により、「拘束」に繋がらないような取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年内部研修を行い理解を深めている。職員間でもお互いに注意し合いながらケアに取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部の研修を通じ理解を深めている。活用にあたっては利用者の状況を見極め制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、本人、家族へ説明を行い疑問にも応じており理解納得は得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催、アンケートを実施している。内容を検討しながら運営に反映させている。	利用者家族アンケートを定例的に実施している。その内容は3年ごとに変更され、有効に活かされている。病院通院について(家族対応であるが)事業所対応も今後検討を重ねる予定である。事業所のイベント等を家族主体で行ってみたい要望を頂いている。これまで意見箱への投稿はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや管理者との面談で意見を話せる機会がある。	スタッフの意見もあり、利用者家族や来客のためにトイレの改修を行った。また夜勤手当をアップする等、労働条件の改善も行われている。年に4回程、幹部との面談があり、個別的な意見を聞き取りする環境もある。管理者は、話しやすい環境作りに努めており、スタッフも日頃より意見を言える環境があると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に具体的な目標を掲げ、向上心を持って働けるよう環境整備、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた研修を年間計画を立て、随時実施している。資格取得に向けたグループ内の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市のGH協会、グループ内のGH部会に参加し、交流、情報交換している。研修等で知り合った同業者とその後交流を持ちネットワークを広げ、サービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に本人と面談を行い、不安や要望にきちんと耳を傾けている。利用開始時から安心して暮らして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に家族とも面談を行い、不安や要望にきちんと耳を傾けている。信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前の面談でグループホームで出来る事、出来ない事を説明し場合によっては他の施設や医療機関を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑作り、食事作り、季節の行事を一緒に行い、時には教えてもらいながら、よりよい関係が構築出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等の参加の呼びかけを行い、本人と家族が共に時間を共有できるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふる里訪問の実施や、家族に行事等の参加の呼びかけを行い、関係継続への支援をしている。	利用者の同級生の方が会いに来られて、涙を流して喜んでた。出向いての馴染みへの継続支援は、年に1回の「おいとこ踊り大会」への招待を受けて、ここ数年、観に行っている。「故郷訪問」や、お墓参りも行っており、家族の協力も頂いたりしながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然にコミュニケーションが取れるよう支援している。相手の体を気遣い、椅子を引いてあげる場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となった場合でも退院後困らないよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	都度希望を伺ったり、日常の会話で希望を引き出せるよう努めている。	センター方式を活用している。色々なタイミングを見図らって、会話をするようにし、「食べたいもの」「出かけたところ」「何が好きか」を一層知っていくために、(センター方式の)活用シートを選びながら有効活用している。食事の時、入浴や排泄対応時にも対話を大切に意向把握に努めている。家族からは、家族会等で口頭で聞き取りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、関係者と面談を行いより多く情報が集められるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、表情、行動、食事、水分摂取量、排泄の観察、管理を行い変化を見逃さないようにしている。個々の力量、行動パターンについては職員は把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートを活用し、課題の抽出をすると共に、本人、家族に意向を伺いケアプランに反映させている。	利用者の介護計画は、一度皆で意見を出し合いながら形作り、最終的にケアマネージャーが仕上げている。アセスメントシートをより活用して、「本人本位」を考えている。毎月の見直し、スタッフ全員でのカンファレンス、3か月毎の更新、随時の変更対応等行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、申し送りで情報を共有し実践に活かしている。記録をケアプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	成年後見制度、権利擁護等状況に応じ支援している。併設のデイサービスの行事に参加することもある。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の月1回の訪問を楽しみにしている方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が、今までのかかりつけ医が主治医となっている。受診の際は手紙を作成し主治医に様子を伝えている。主治医から生活上の注意点や指示を受ける事もある。	通院は原則的に、家族対応であるが、事業所でも適宜対応している。それぞれの(利用者の)主治医とも連携が図られている。主治医から生活上の注意点や指示をいただく事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の訪問があり、様子や気付きを看護記録に記し伝えている。緊急時には訪問日以外でも連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者や家族と連携を密にし、治療に専念できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時、看取りの指針がある旨を説明し同意を得ている。利用の段階となった時点で改めて契約を取交す事としている。	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」を作成しており、段階を経て、(ご家族等への)説明や看取りへの対応を行っている。これまでの経験の中で、看取りを行っていく流れの中で、利用者同士の心の触れ合い事例(他の利用者が、居室に入って来て、当事者の涙を拭いてあげた)もあり、利用者同士の「心の触れ合い」の気持ちも大切にしよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員に出向いて頂き、救急救命講習(AED、応急手当)を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、様々な状況を想定し訓練を実施している。地域の防災協力隊も結成されており、消防署指導の下での訓練も実施している。	地域の近隣の方々に「防災協力隊」(11名構成)を結成していただき、避難訓練時にも協力頂いている。様々な状況想定での避難訓練では、冬場の薄暗い時間帯に夜間を想定し行ったりしている。災害用の物品も整備されており(リスト化)、確認も行われている。昨年震災では地域からの協力を頂いた。発電機も購入した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	禁句マニュアルを整備し、尊厳を大切にしたケアを心掛けている。	今年度から内部研修計画を立て、スタッフ持ち回りで(講師等を)担当し、様々な内容の研修を行っているが、「利用者の尊厳」についても学習し、理解を深めるようにしている。また日常の関わりにおいても、個々を大切にされたケアを心がけている。マニュアルの整備も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る様な、声掛けや働きかけをしている。表出が困難な方には行動や表情からサインを読み取るようにし、個々の能力に応じた対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやペースを大切にはしているが、共同生活の場でもある為皆で過ごす時間を持つ事への支援もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定、その人らしさを優先しつつ、清潔にも配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じた支援をしながら、準備から片付けまで一緒に行っている。	スタッフも利用者と共に食事をしている。利用者の個性に合わせて(スタッフは)明るく声掛けや会話をしながら楽しい食事の風景がある。食事の準備や片付けも、男性利用者の方も自然に参加しており、日常の1コマを皆で作っている感じが見受けられた。出来ることをやって頂いている。食事メニューは同じであるが、それぞれのユニットキッチンで調理されているため、調理する人々の独自の味わいが感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量については個々に記録し、変化があった時は申送り情報で共有し対応している。一人ひとりの能力や習慣に合わせて柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、誘導、見守り、介助と本人の能力に応じ支援している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	個々のペースに合わせたトイレへの誘導等を行っている。夜間の(個人のパターンに合わせた)定期誘導や日中の適切な誘導により、失禁等が減少した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動、下剤の服用方法等個別に対応している。朝食後は全員促しや誘導でトイレに行くよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は概ねの決まりはあるが、事前に希望を把握したり、日々希望を確認しながら柔軟に対応している。	利用者の生活リズムに合わせた入浴支援を心がけている。時間帯は、夕方にかけての午後の時間が主であるが、午前中に入浴したい方がいれば、対応している。季節を感じさせるお風呂(ゆず、みかんの皮)をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度、湿度、照明等に配慮している。また、使い慣れた家具を持ち込んで頂いたり、生活習慣に合わせて畳に布団を敷いて休んでいる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用は薬局から出される薬剤情報シートで確認している。症状に変化があった時は直ちに医療機関に連絡し相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味、嗜好品等個々に把握し日々の生活の中で力が発揮できるよう、張り合いや楽しみが持てるようプランに盛り込み支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くを散歩したり希望に沿って買物の支援をしている。付きに1~2回程程度ドライブや外食の機会がある。	近隣の散歩や、個人の買い物(おやつや、衣服等)、月に何回かはドライブ等へも出かけている。家族も参加するなどして外出支援が行われている。大きな行事等は、行事係が年間計画を立て、計画的に行われている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	働きかけにより家族に手紙を書いたり、電話をかけたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに配慮している。照明、温度、湿度等快適に生活できるよう配慮している。	利用者の多くは、一日のほとんどを皆の共有空間で過ごしている。採光もよく居心地のいい空間となっている。一角に(畳の)小上がりがあり、定期的に市の図書館から本を借りて置いており、利用者は見たり、読まれたりしている。梅干しの本や料理の本などを好んで読まれているという。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳、ベンチ等を設置し思い、思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの人の写真を飾ったり、使い慣れた物を持って来て頂いたり、安心して暮らせるような居室作りに配慮している。	備え付けのベッド、タンスのほか、写真を飾ったり、神主の経歴がある方は、壁にお飾りが掲げられているなど思い思いのお部屋となっている。お位牌を置かれている方もいる。各居室の採光もよく、明るい感じの間取り(空間)となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室等案内札を設置し、出来るだけ自立した生活が出来るよう工夫している。		